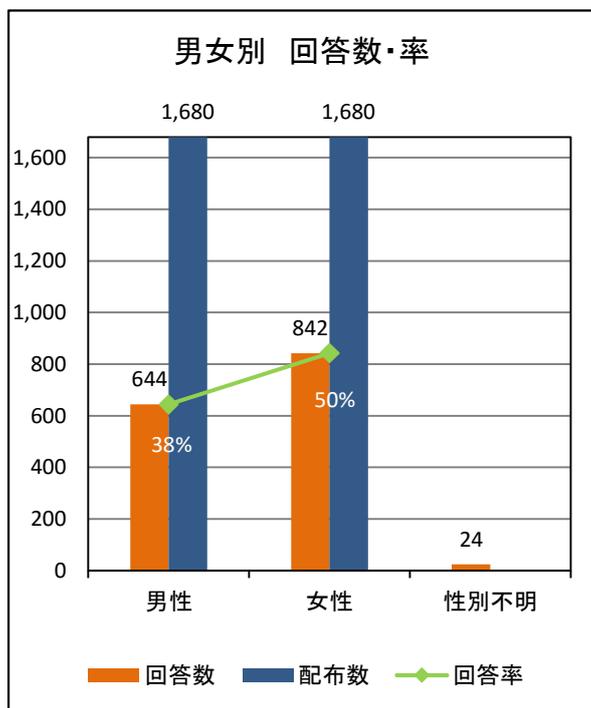
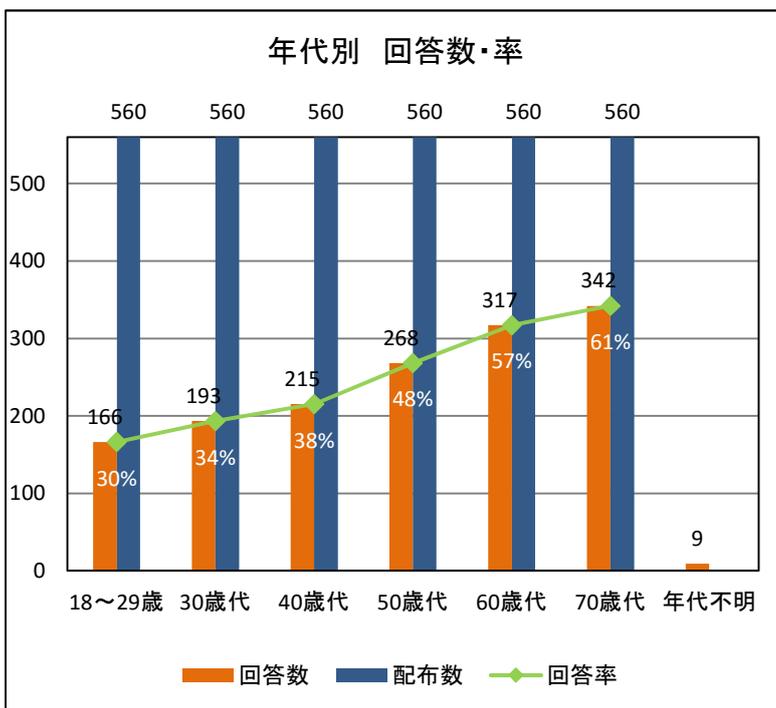


○地域福祉に関する市民アンケート調査結果(平成29年度実施)

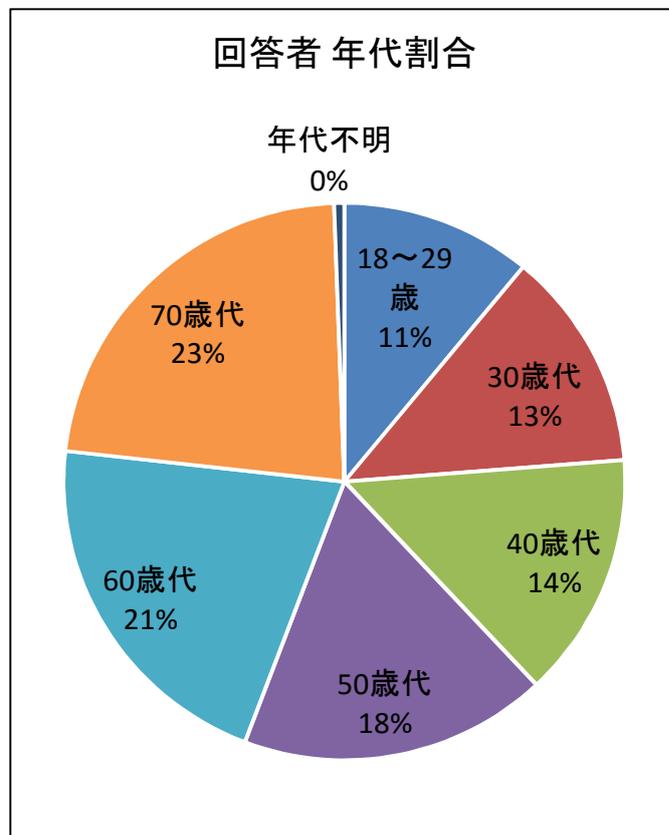
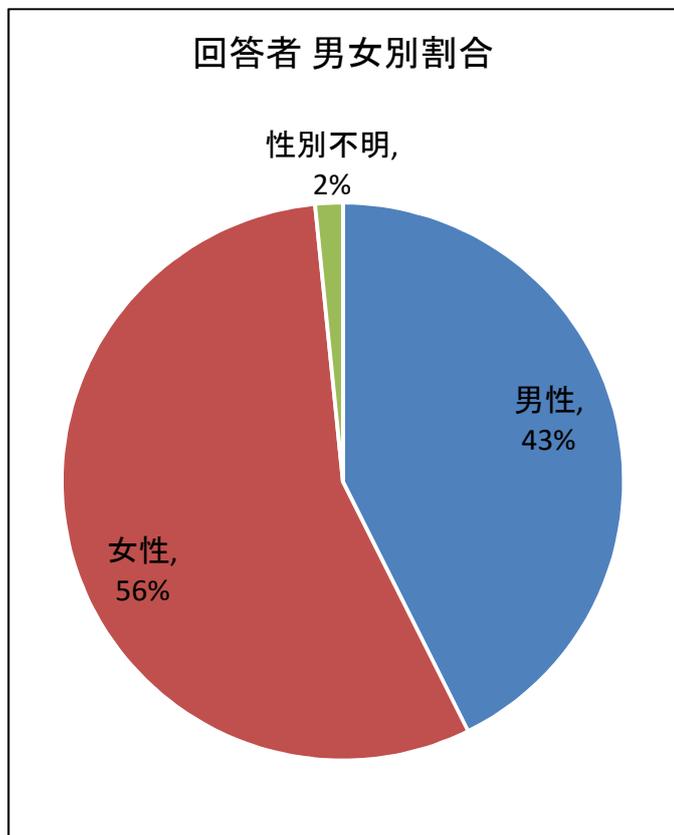
送付数	回答数	回答率
3,360 人	1,510 人	44.94 %



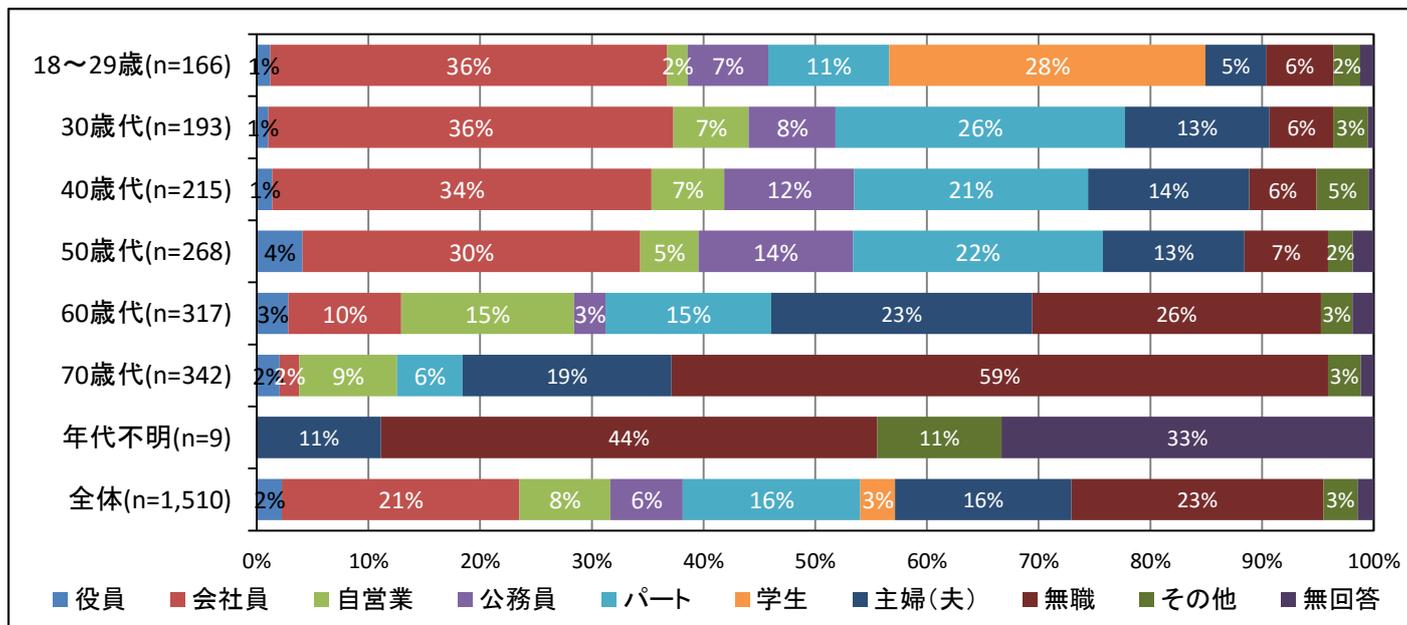
男女別の回答率は男性4割、女性5割であった。



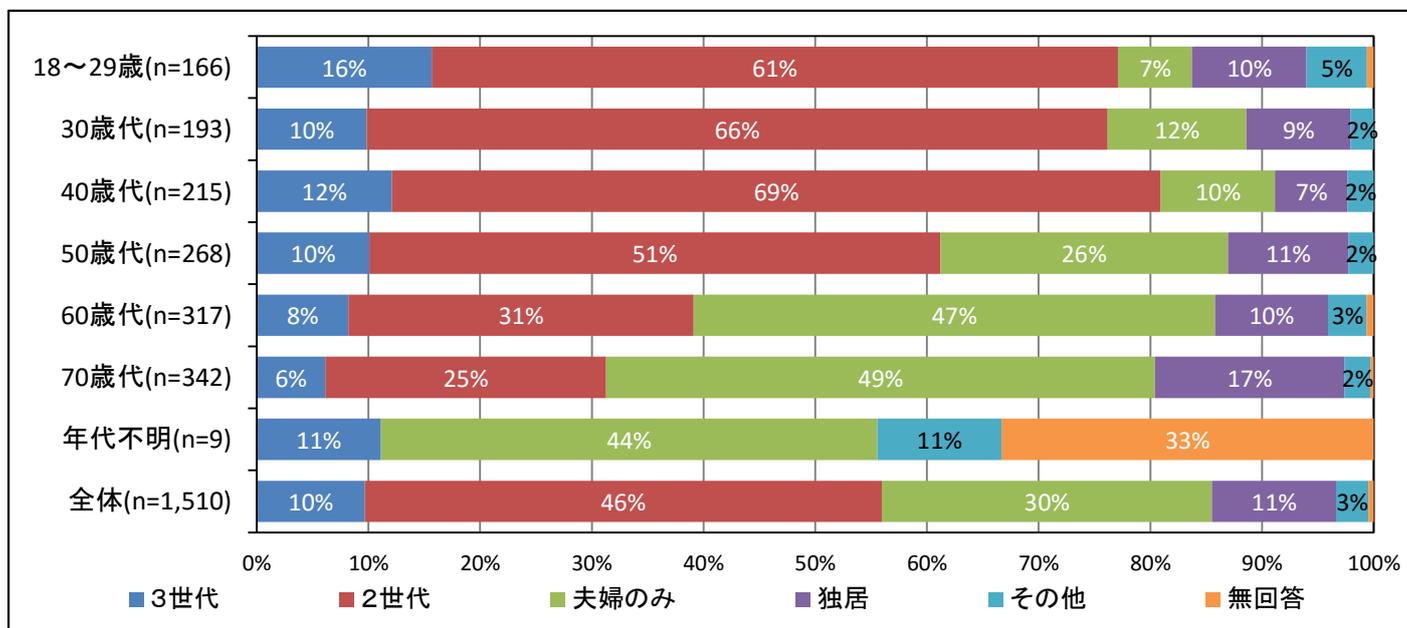
年代が高くなるほど回答率も高くなっている。



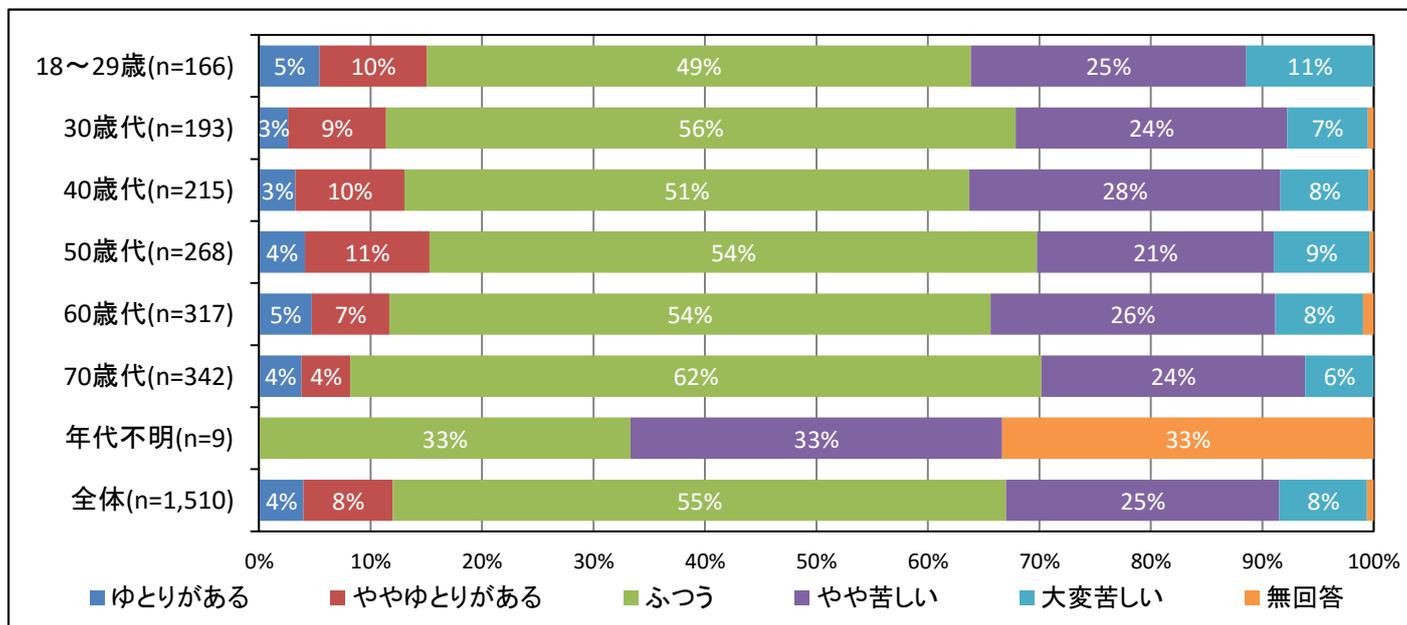
○職業



○世帯構成



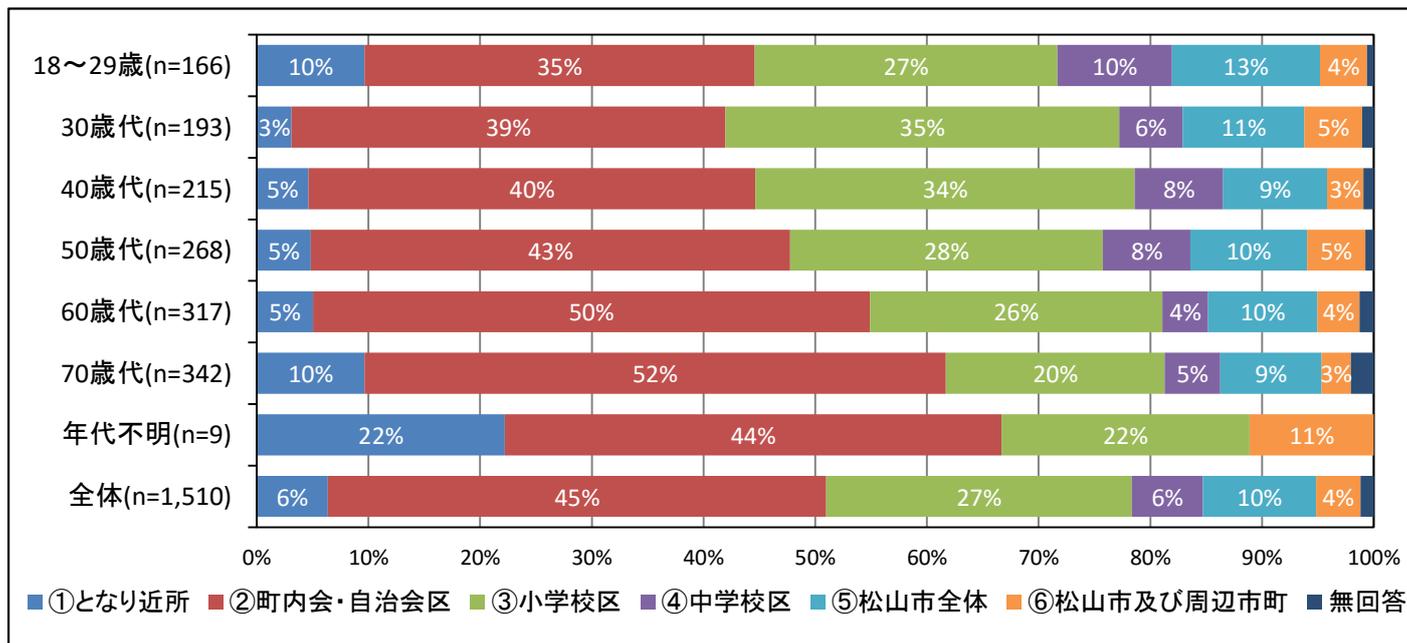
○暮らしの状況



## I. 地域に関する質問

### 【質問1】

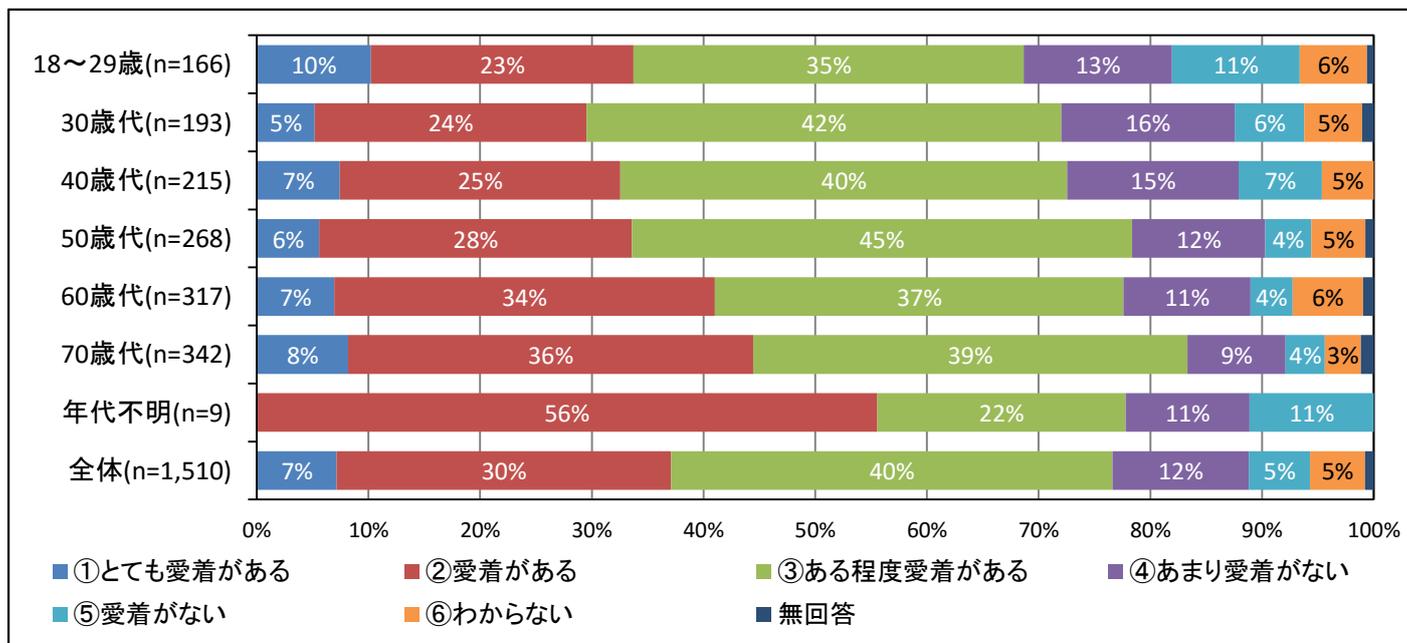
あなたにとって「地域」とは、どの範囲を思い浮かべますか。次の中から最もあてはまるものを選択してください。



「地域」の範囲として、町内会・自治会区を思い浮かべる割合が45%で最も高くなっている。小学校区程度までを思い浮かべる人が全体の約8割を占めている。

### 【質問2】

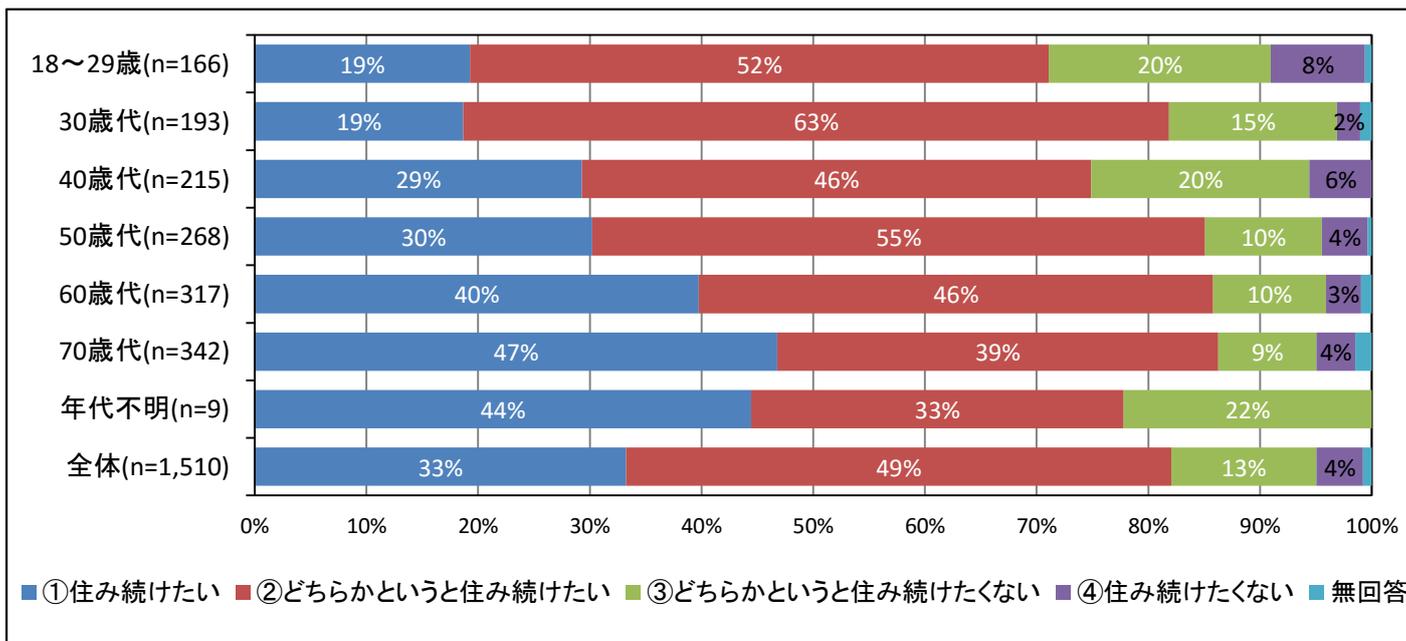
あなたは、現在お住まいの地域に愛着がありますか。



全体の77%が居住地域に愛着を持っており、年代別にみると、最小が18～29歳の68%で、最大は70歳代で83%となっている。また、愛着を持っていないのは18%にとどまっている。

【質問3】

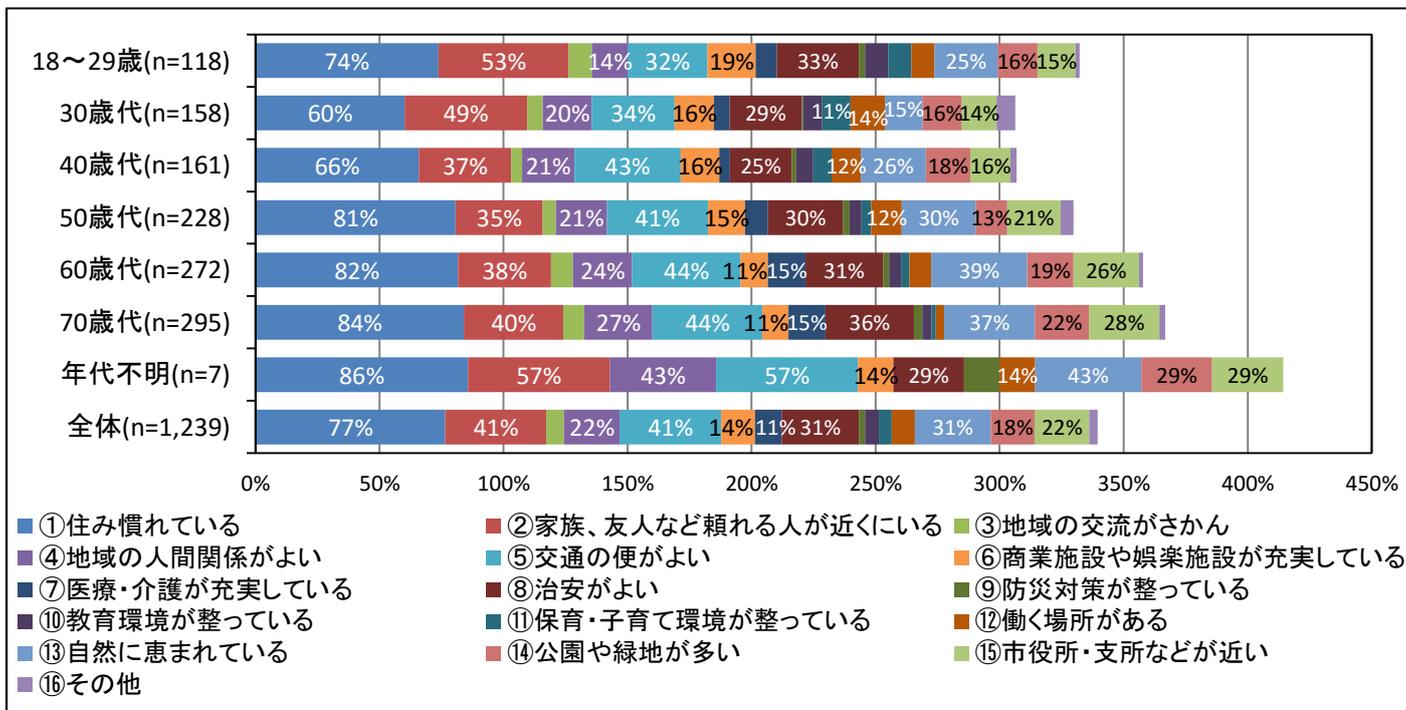
(1) あなたは、現在お住まいの地域に住み続けたいと思いますか。



全体の82%が居住地域に住み続けたいと思っており、年代別ではいずれも7割を超えている。一方、住み続けたくないと思っているのは全体の17%であったが、18～29歳が28%、40歳代が26%と一部の年代で高くなっている。

(2) (1)で1・2を回答された方に伺います。

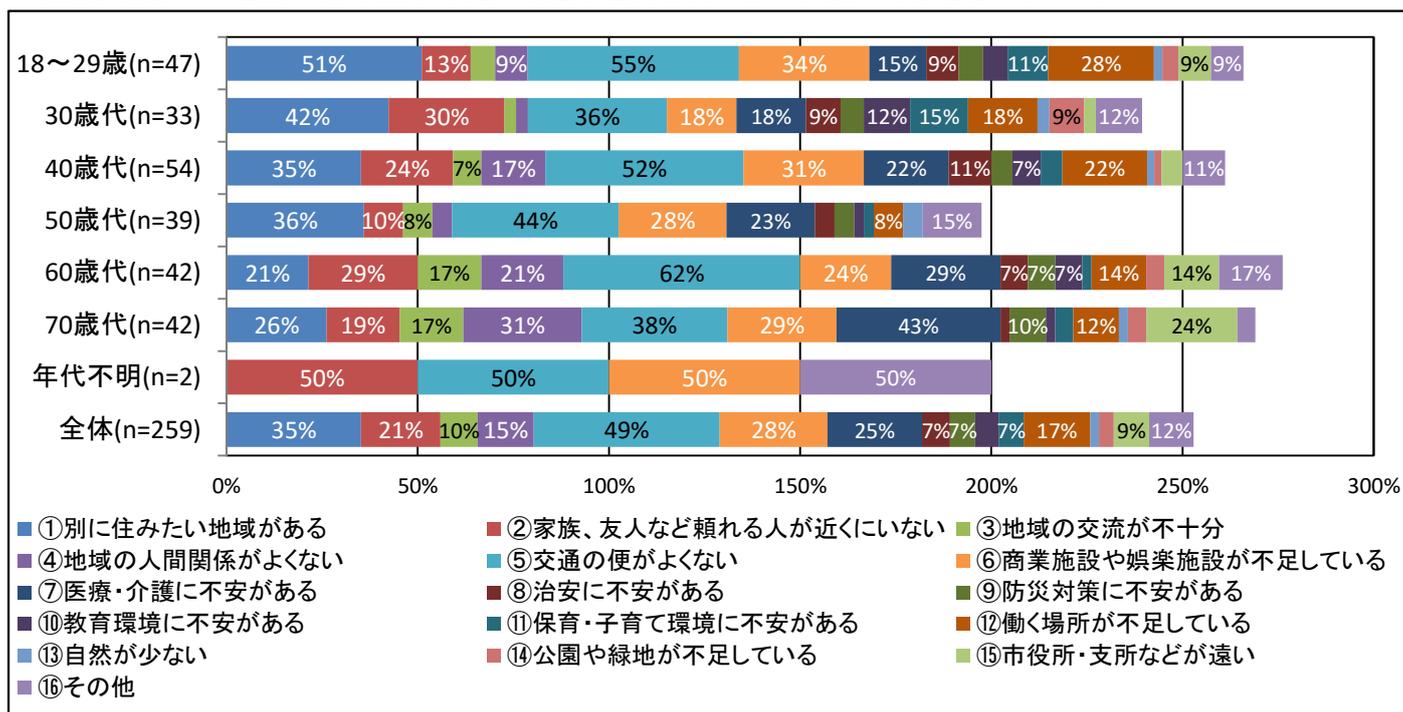
現在お住まいの地域に住み続けたいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべて)



居住地域に住み続けたい理由としては、「住み慣れている」が77%、次いで「家族、友人など頼れる人が近くにいる」・「交通の便がよい」が41%、「治安がよい」・「自然に恵まれている」が31%となっている。一方、地域交流や防災対策、教育・保育・子育て環境面の理由は低調であった。

(3) (1)で3・4を回答された方に伺います。

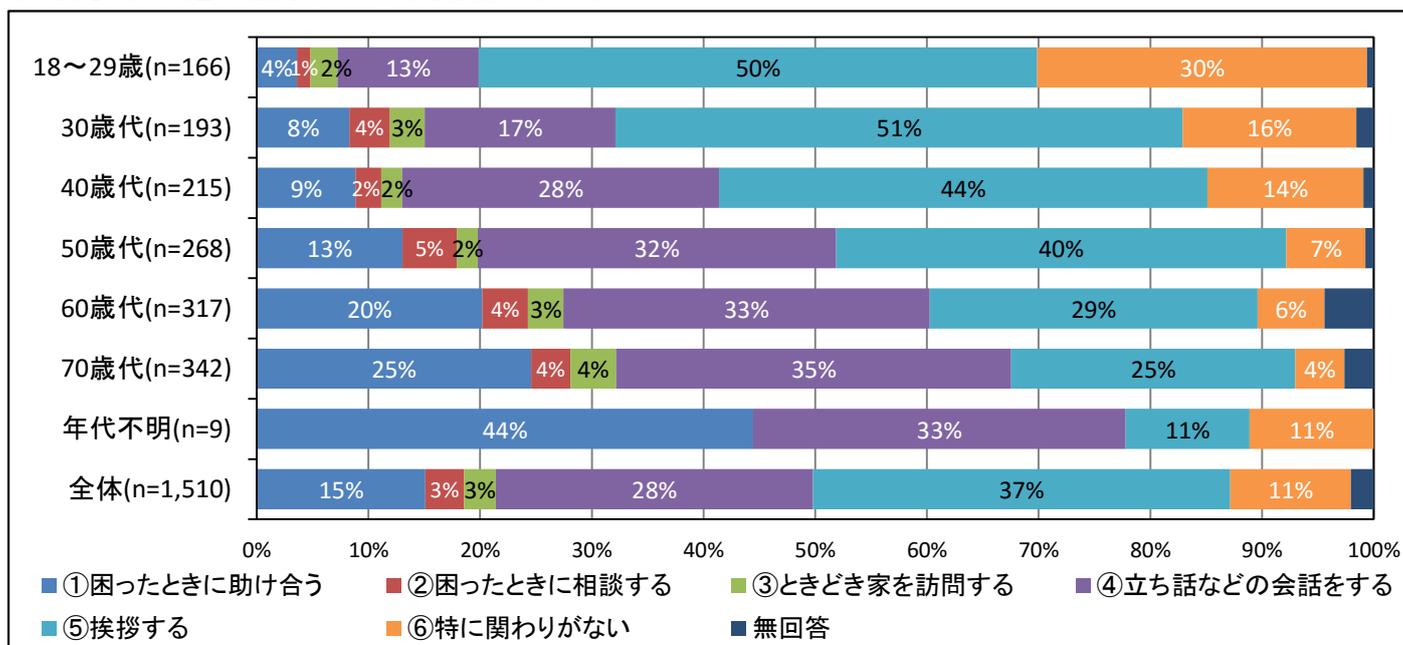
現在お住まいの地域に住み続けたくないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべて)



居住地域に住み続けたくない理由としては、「交通の便がよくない」が49%、次いで「別に住みたい地域がある」が35%のほか、商業・娯楽施設の不足や医療・介護の不安、家族・友人などが近くにいないことなどが2割を超えている。また、地域の間人間関係や交流に関する理由が1割程度見られた。

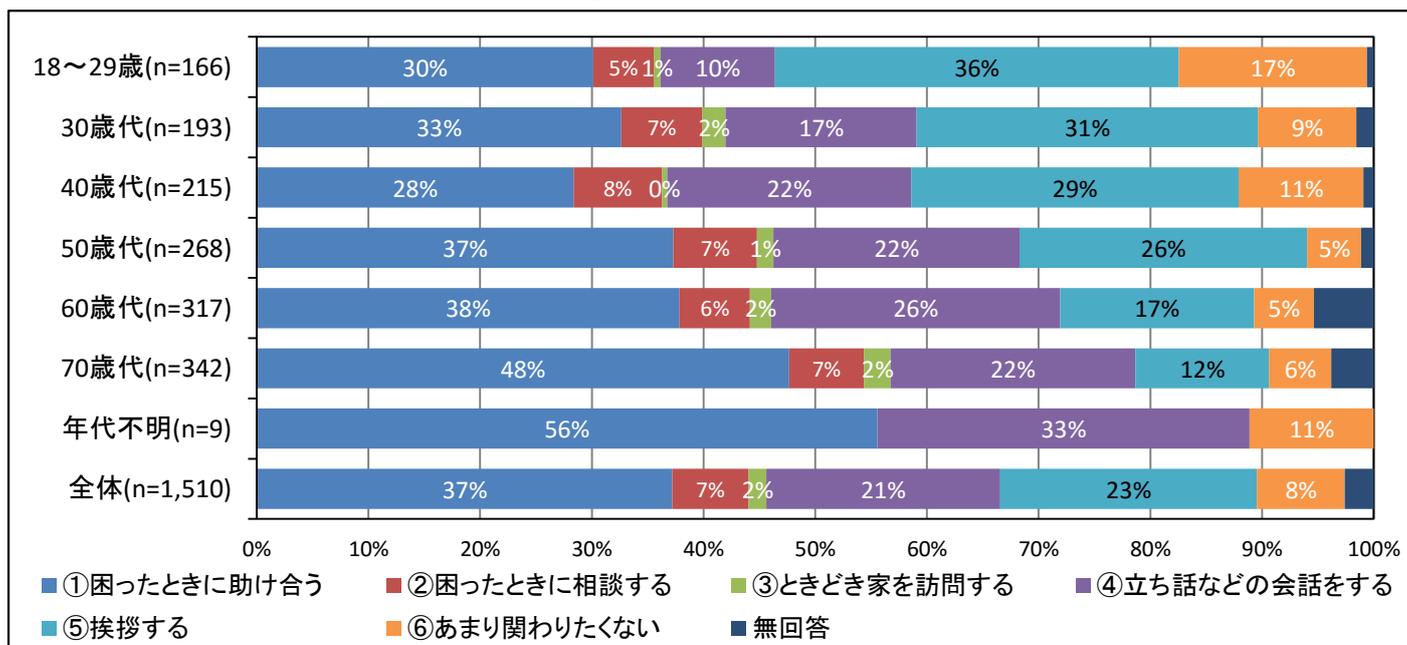
【質問4】

(1) あなたは、近隣住民とどのような関係ですか。



全体の86%が近隣住民と関わりを持っているが、年代が低くなるほど関わりがない割合が高くなっている。また、関わりの度合は、年代が高くなるほど深い関係を築いている。

(2) あなたは、今後、近隣住民とどのような関係を望みますか。

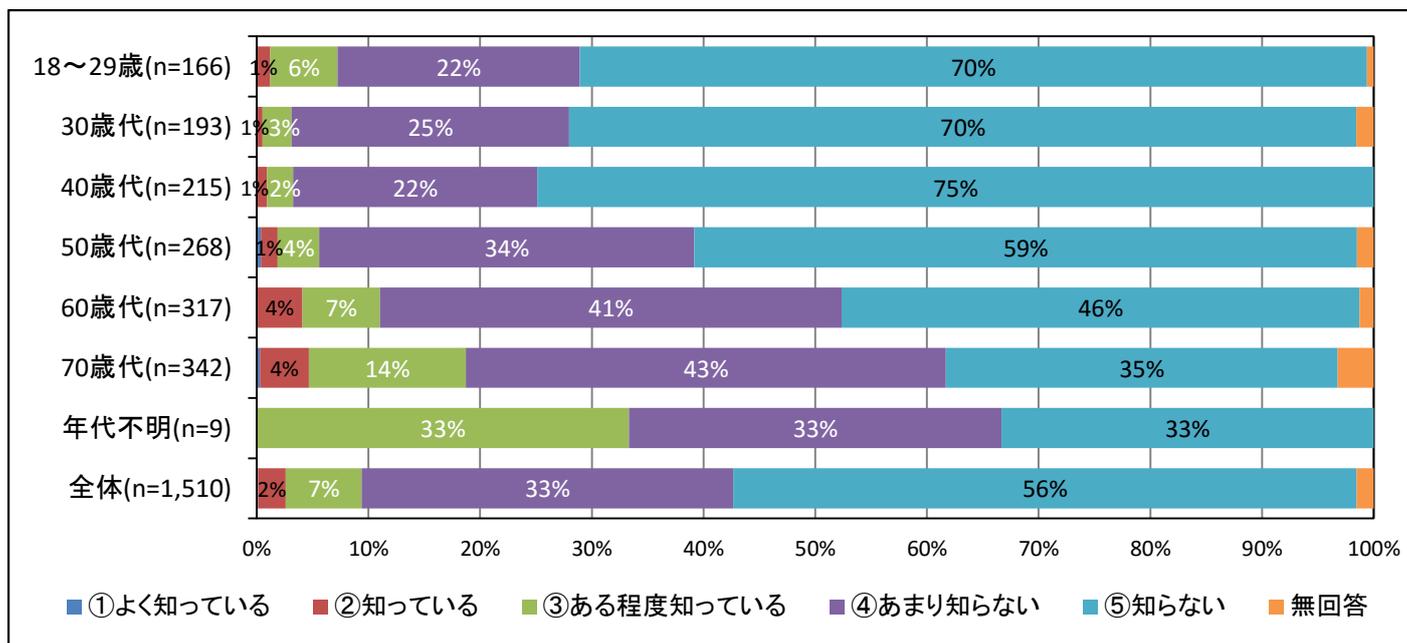


全体の90%が近隣住民との関わりを望み、「困ったときに助け合う」が全体の37%となっており、年代別にみると、年代が高くなるほどその割合が高くなっている。一方、立ち話や挨拶をする程度の関係を望む人が全体の4割程度いた。

## Ⅱ. 知識・認識に関する質問

### 【質問5】

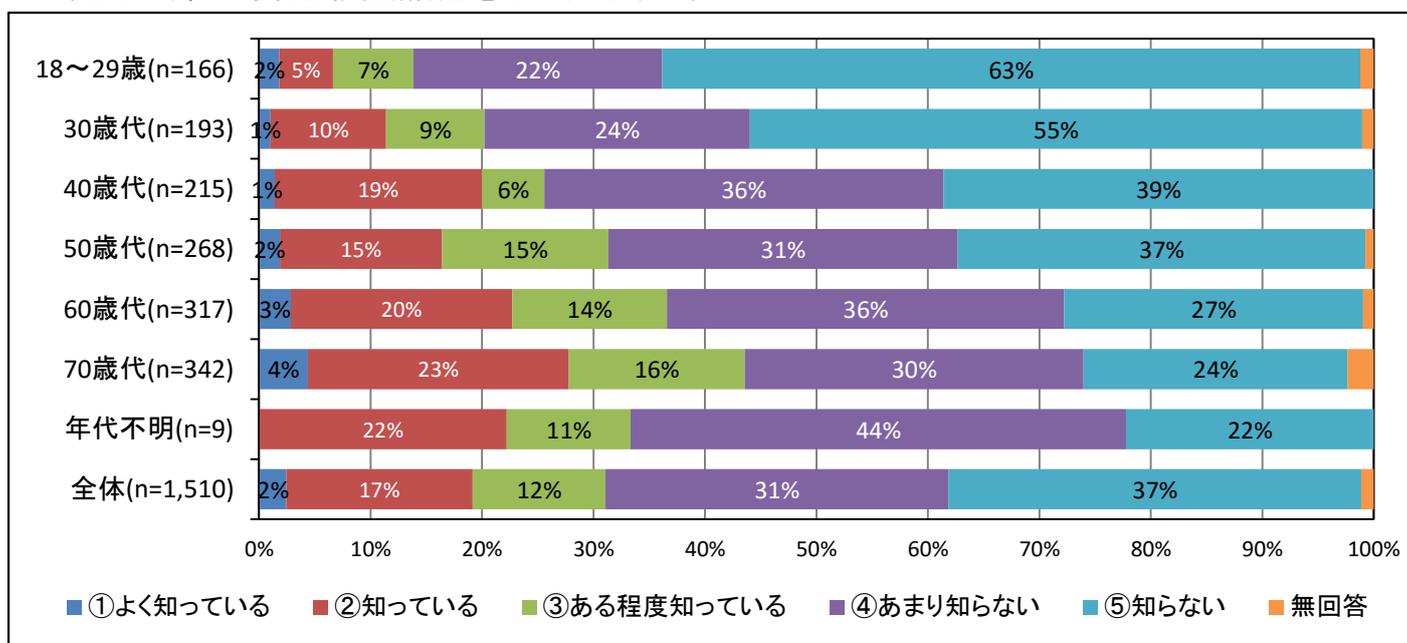
あなたは、松山市が策定する地域福祉計画のことを知っていますか。



松山市地域福祉計画を知っているのは1割程度で、特に低い年代で低くなっている。また、全体の半数以上で認知されていなかった。

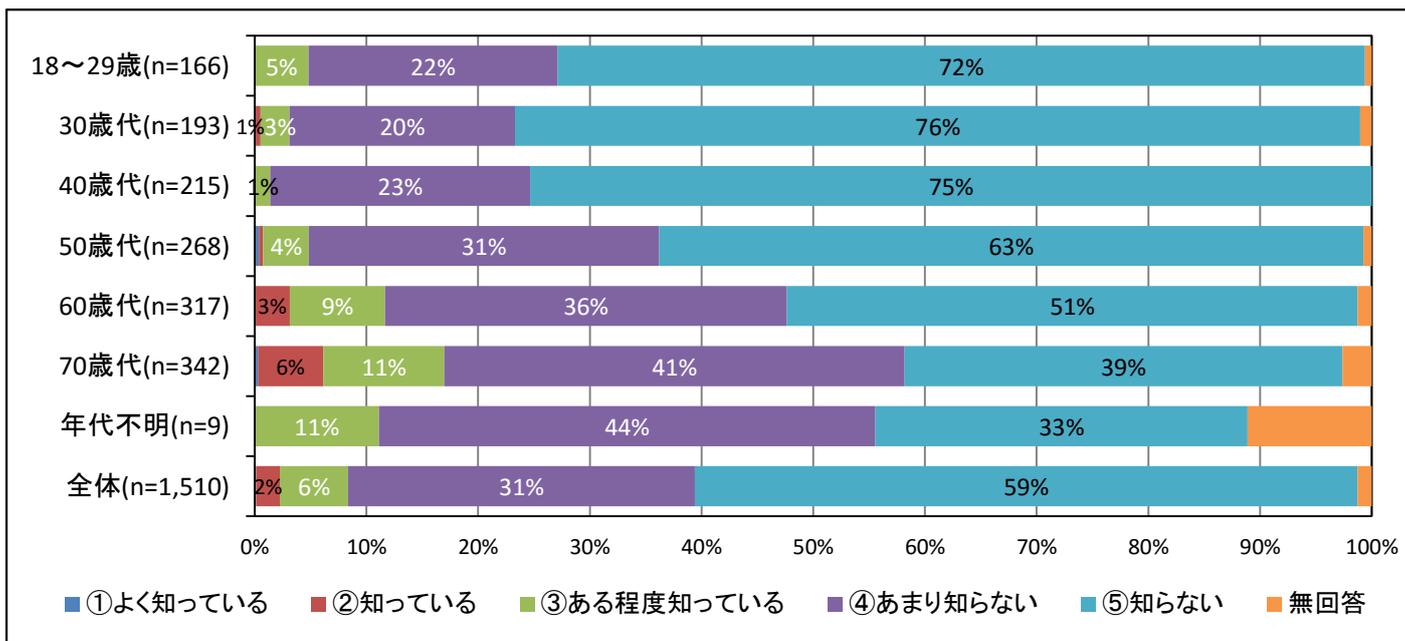
### 【質問6】

(1) あなたは、松山市社会福祉協議会を知っていますか。



松山市社会福祉協議会を知っているのは3割程度で、年代が高くなるほど認知度が高くなっている。

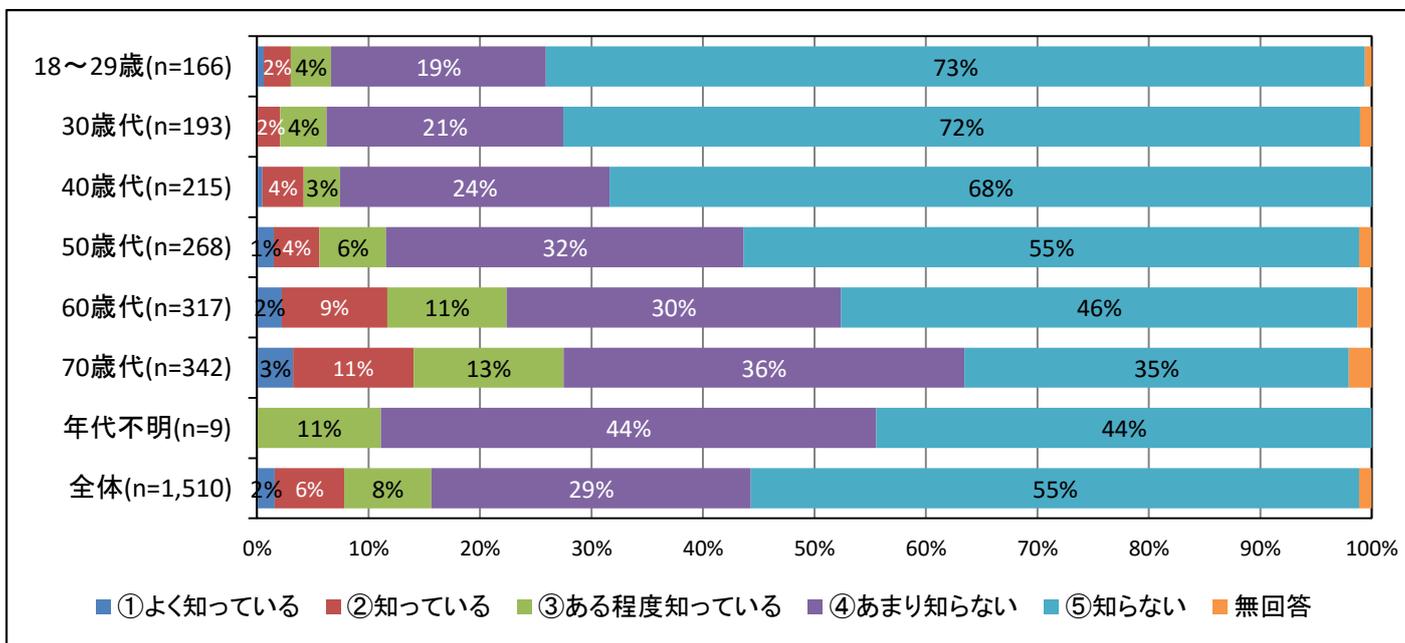
(2) あなたは、松山市社会福祉協議会が策定する地域福祉活動推進計画のことを知っていますか。



松山市地域福祉活動推進計画を知っているのは1割程度で、特に低い年代で低くなっている。また、全体の約6割で認知されていなかった。

【質問7】

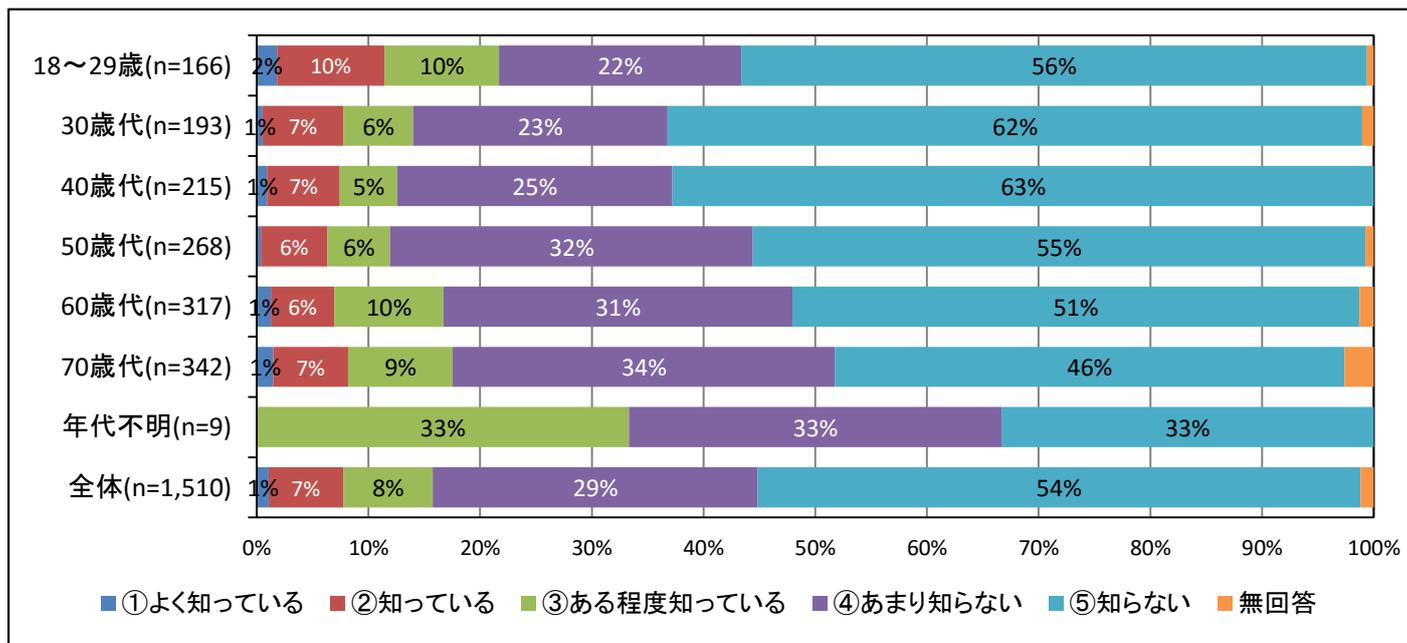
あなたは、地区社会福祉協議会を知っていますか。



地区社会福祉協議会を知っているのは全体の16%で、年代別にみると、60・70歳代では2割を超えているが、40歳代以下では1割未満となっている。

【質問8】

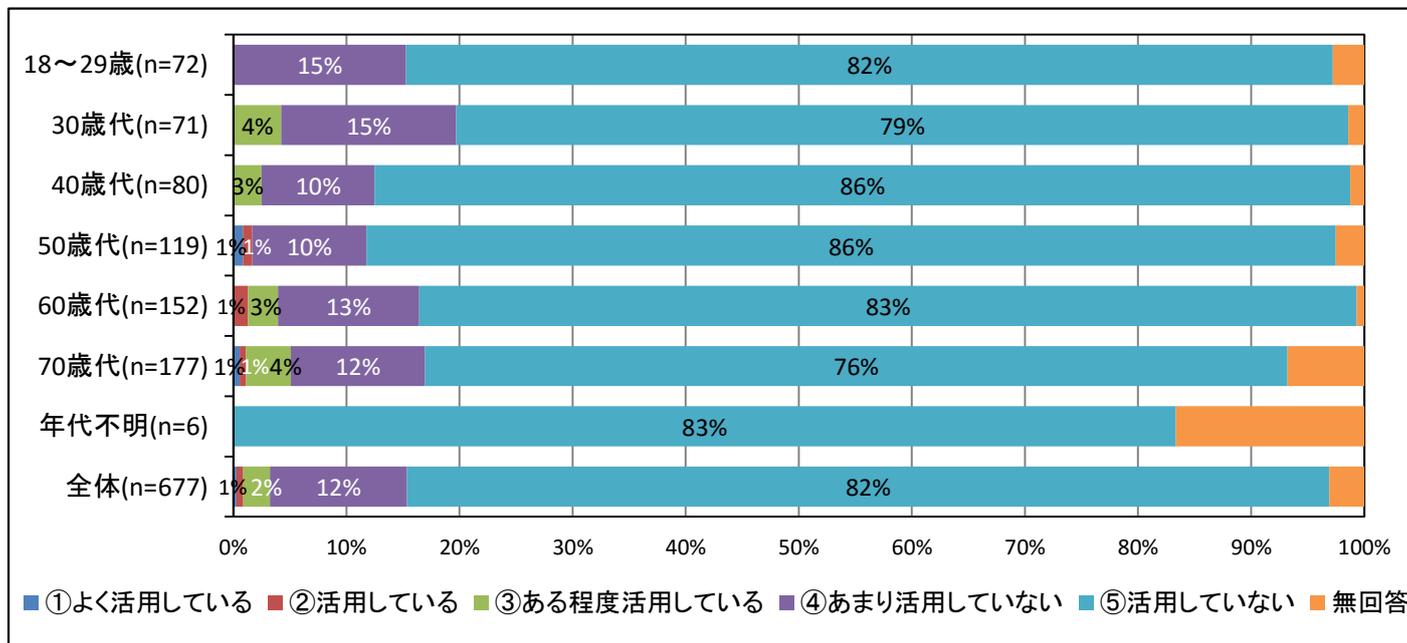
(1) あなたは、松山市ボランティアセンターを知っていますか。



松山市ボランティアセンターを知っているのは16%で、18～29歳、60・70歳代で多少認知度が高くなっている。

(2) (1)で1～4を回答された方に伺います。

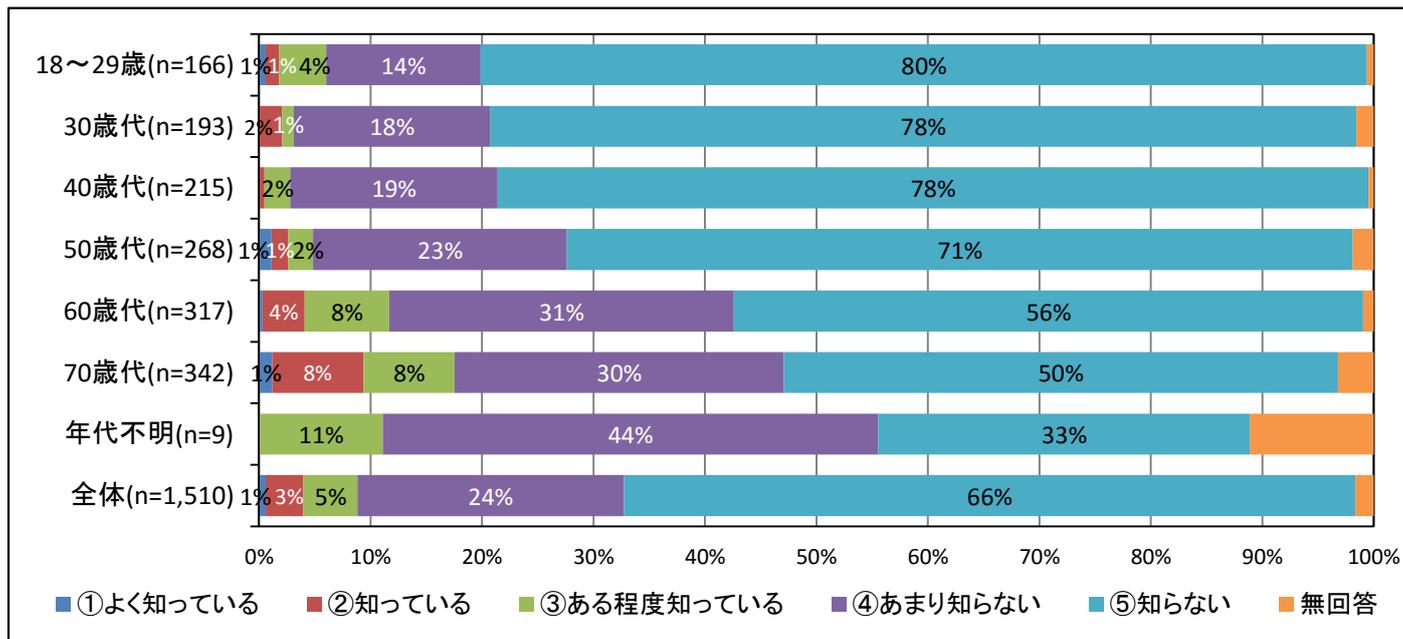
あなたは、松山市ボランティアセンターを活用していますか。



松山市ボランティアセンターを知っている人のうち、同センターを活用している割合は低調である。

【質問9】

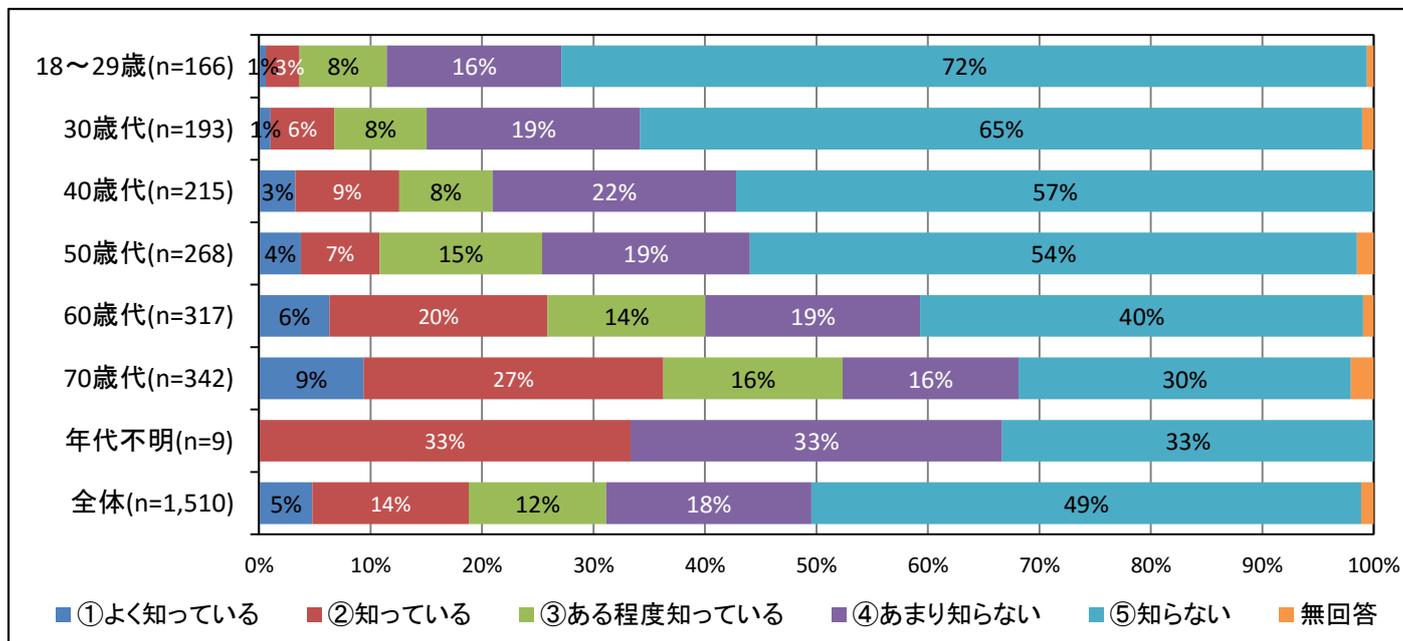
あなたは、松山市社会福祉協議会が実施する地域福祉サービス事業(地域住民間の助け合い活動)を知っていますか。



地域福祉サービス事業の認知度は全体の1割程度で、3分の2で認知されていない。

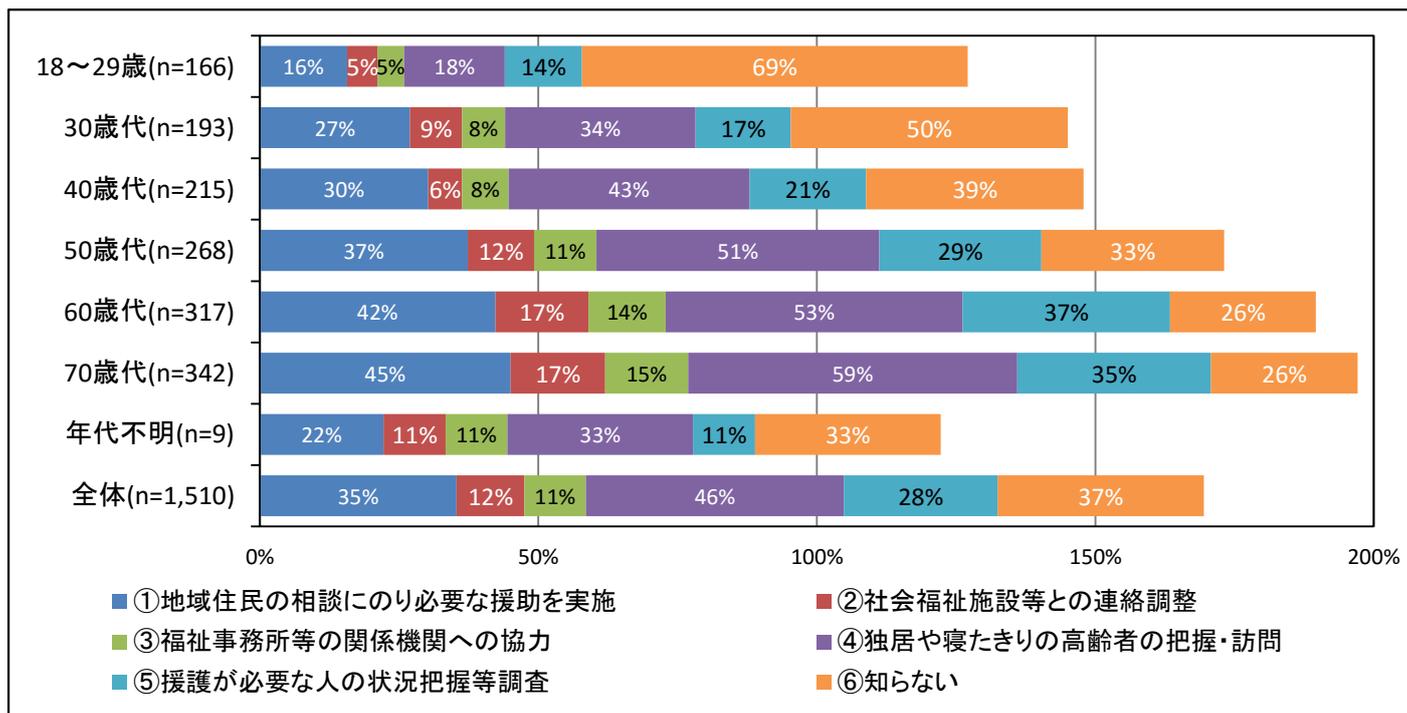
【質問10】

(1) あなたは、お住まいの地域の民生委員・児童委員を知っていますか。



居住地の民生委員・児童委員を知っているのは3割程度で、年代が高くなるほど認知度が高く、70歳代では5割を超えている。また、全体の約半数で認知されていなかった。

(2) 民生委員・児童委員が行っている活動で知っているものを選択してください。(あてはまるものすべて)

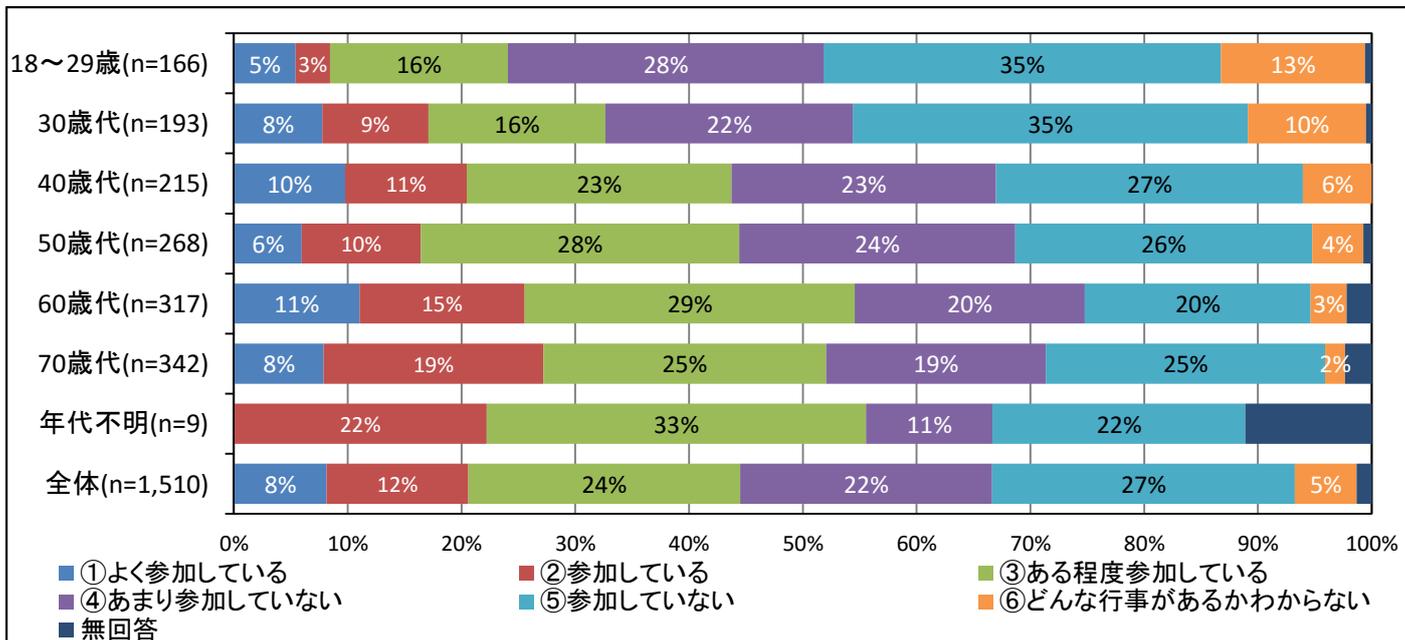


民生委員・児童委員の活動として、地域住民からの相談対応や、独居高齢者や要援護者等の把握は3～5割程度の人に認識されている。

### Ⅲ. 関心・意欲・行動に関する質問

#### 【質問11】

あなたは、様々な地域行事(清掃、運動会、お祭りなど)に参加していますか。

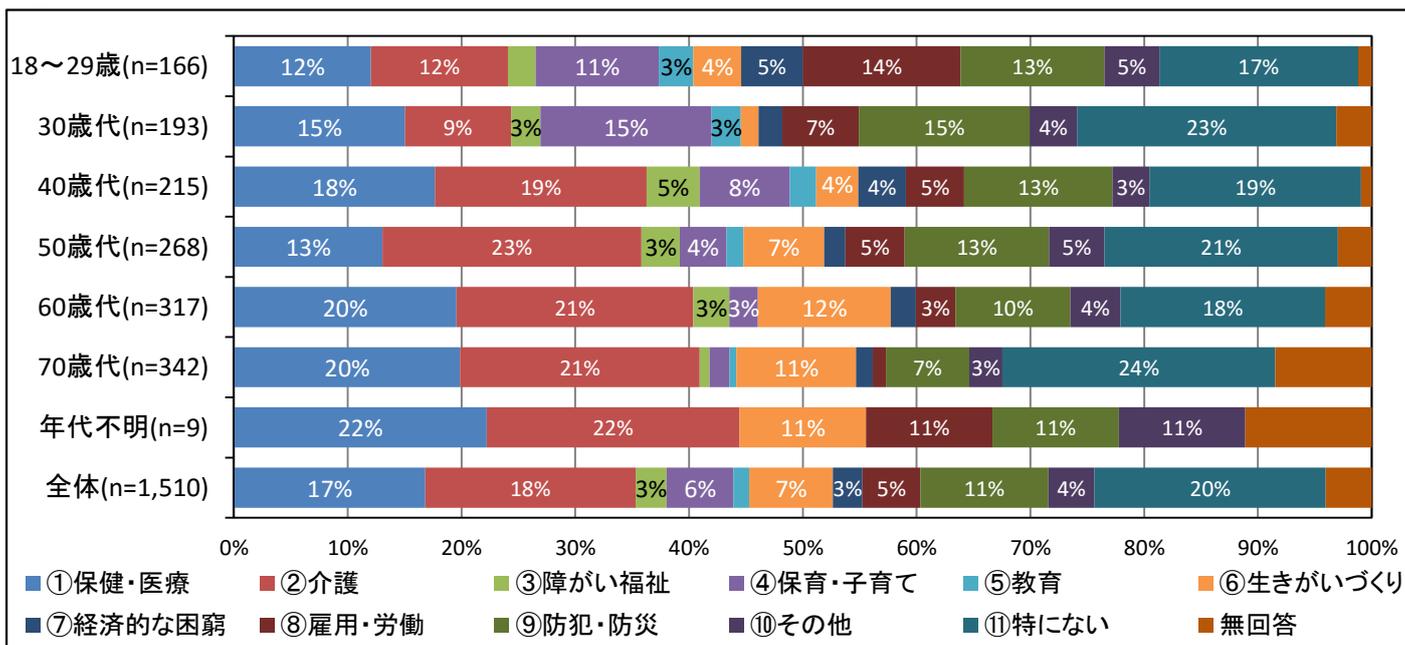


全体の44%が地域行事に参加しており、年代別にみると、60歳代が55%で最も高く、30歳代までの参加割合が低くなっている。

#### 【質問12】

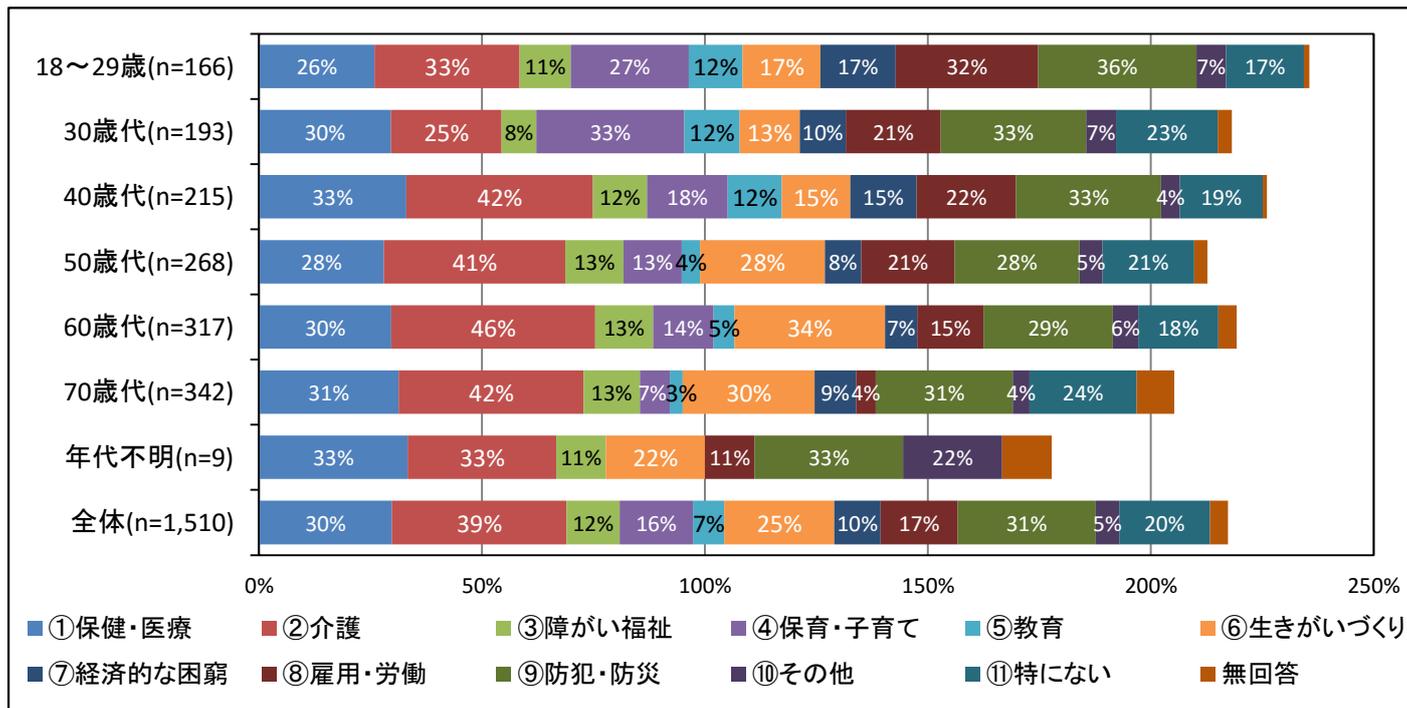
(1) あなたは、現在お住まいの地域で、どのような分野の課題や問題があると思いますか。最もあてはまるものから順に3つ以内で選択してください。

1位



居住地の課題や問題について、全体の20%が「特にない」と答えたほか、最も課題や問題と考える分野として、「保健・医療」や「介護」がそれぞれ2割程度、次いで「防災・防犯」が1割程度となっている。

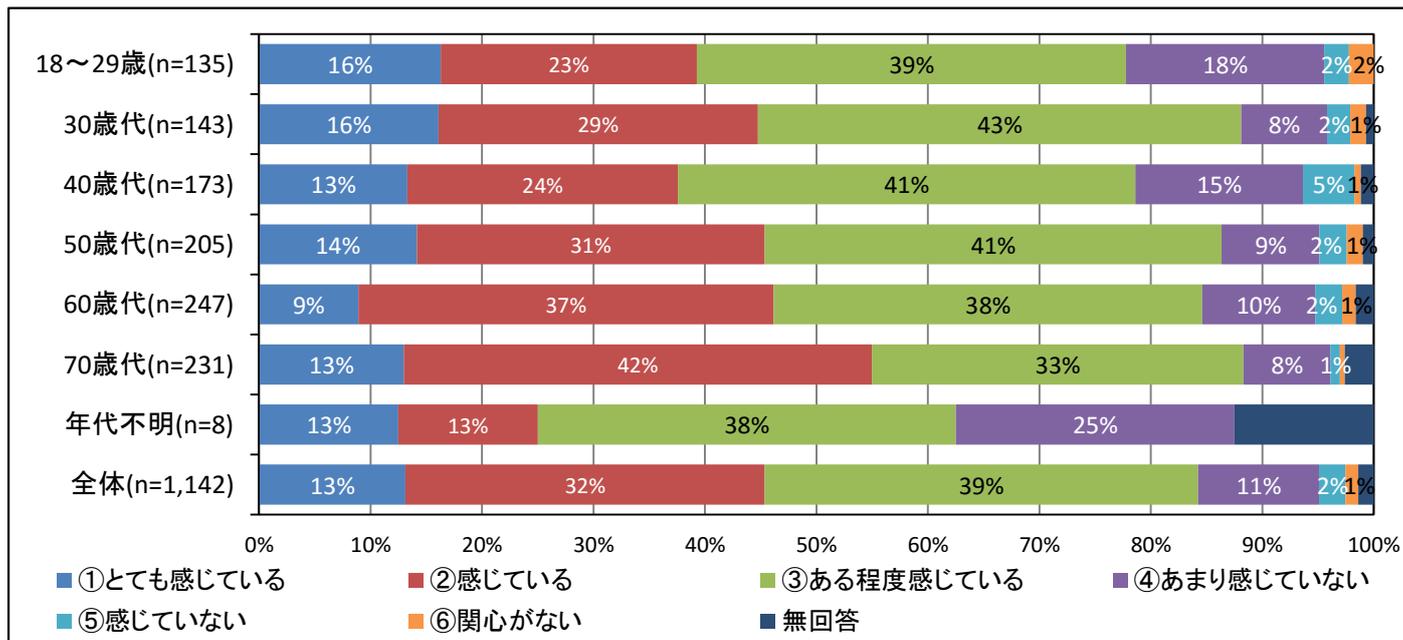
総計(順位関係なし)



居住地の課題や問題と考えている分野として、「介護」が39%、「防犯・防災」が31%、「保健・医療」が30%、次いで「生きがいつくり」が25%となっている。年代別にみると、高い年代では介護や生きがいつくり分野が多く、低い年代では保育・子育て分野が多くなっている。

(2) (1)で1～10のいずれかを選択された方に伺います。

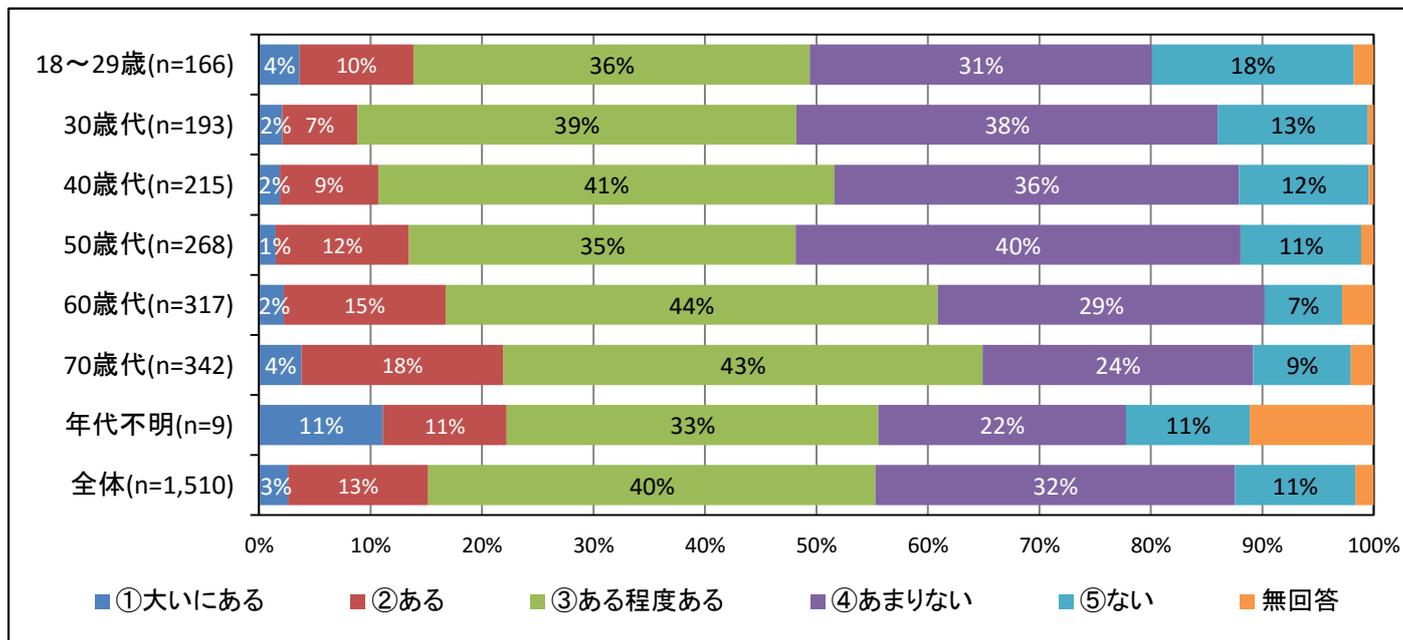
あなたは、選択した課題や問題を、ご自身のこととして身近に感じていますか。



居住地で課題や問題があると考えている人のうち、8割以上の方がそれらの課題や問題を自分自身のこととして捉えている。年代別の傾向はあまり見られない。

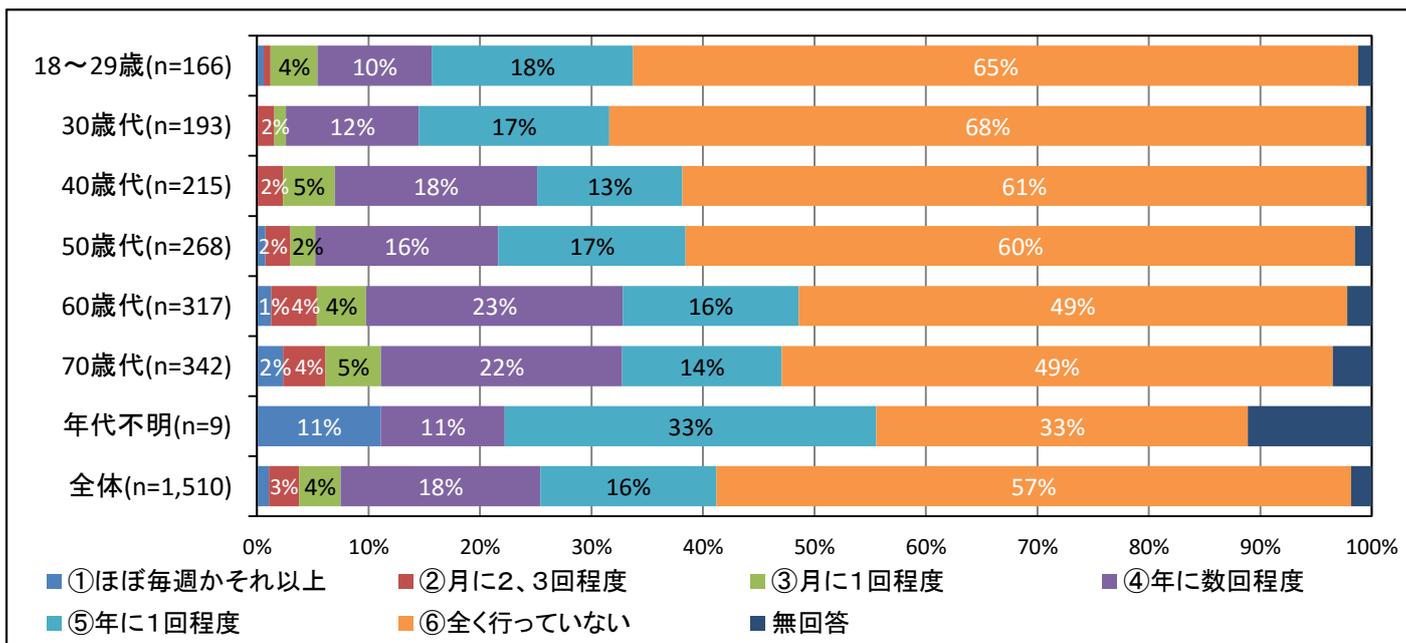
【質問13】

(1) あなたは、ボランティア活動や住民の支え合い活動に興味・関心がありますか。



全体の5割以上が、ボランティア活動や住民の支え合い活動に興味・関心を持っており、60・70歳代では6割を超えている。低い年代ほど無関心の割合が高い。

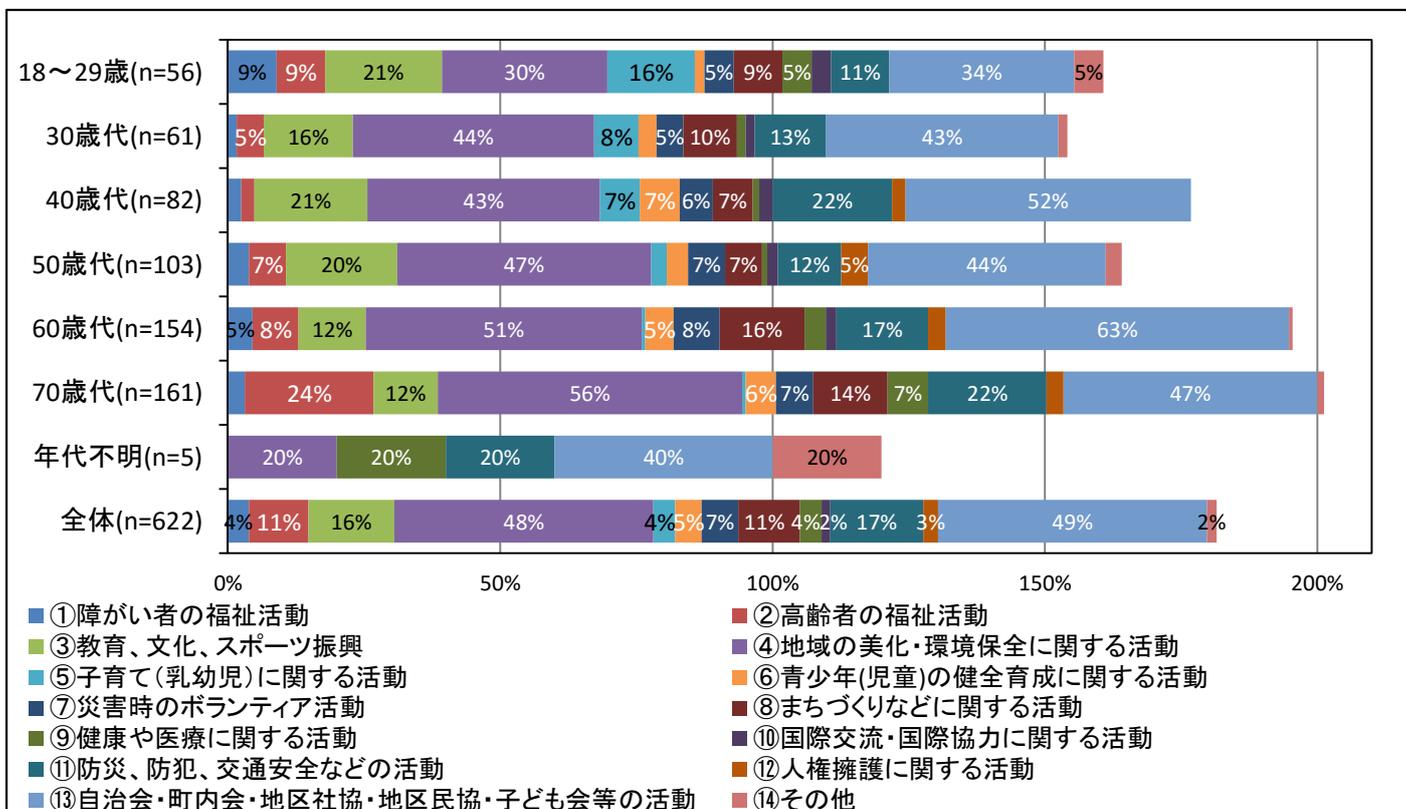
(2) あなたは、過去1年間にボランティア活動や住民の支え合い活動をどのくらいの頻度で行いましたか。(現在継続しているものも含む)



全体の41%が、過去1年間にボランティア活動や住民の支え合い活動を行っている。実施頻度は、年に1回から数回程度が多かった。

(3) (2)で1～5を回答された方に伺います。

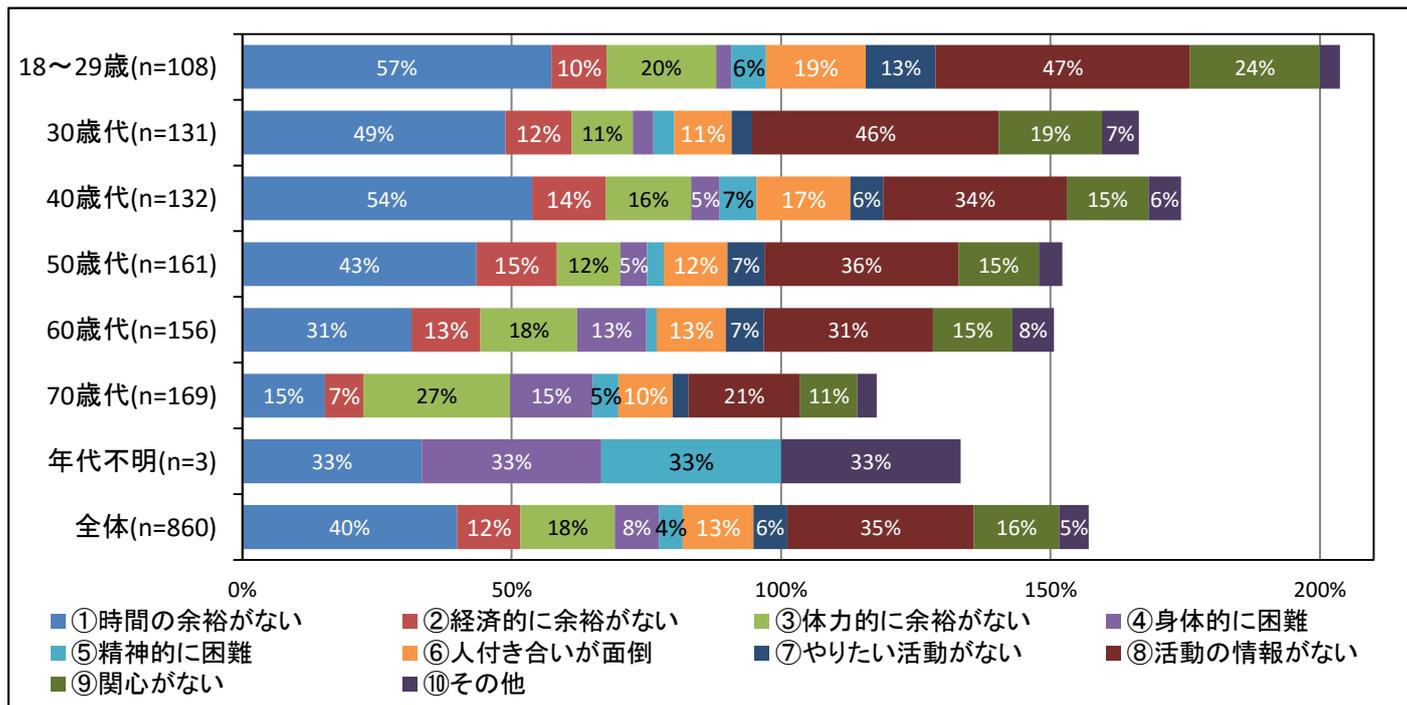
あなたは、どのようなボランティア活動・住民の支え合い活動を行いましたか。(あてはまるものすべて)



過去1年間に実施したボランティア活動や住民の支え合い活動の内容として、環境美化活動や自治会・町内会等の活動をそれぞれ5割程度の人が行っている。福祉分野では、1割程度の人が高齢者福祉活動を行っていた。

(4) (2)で6を回答された方に伺います。

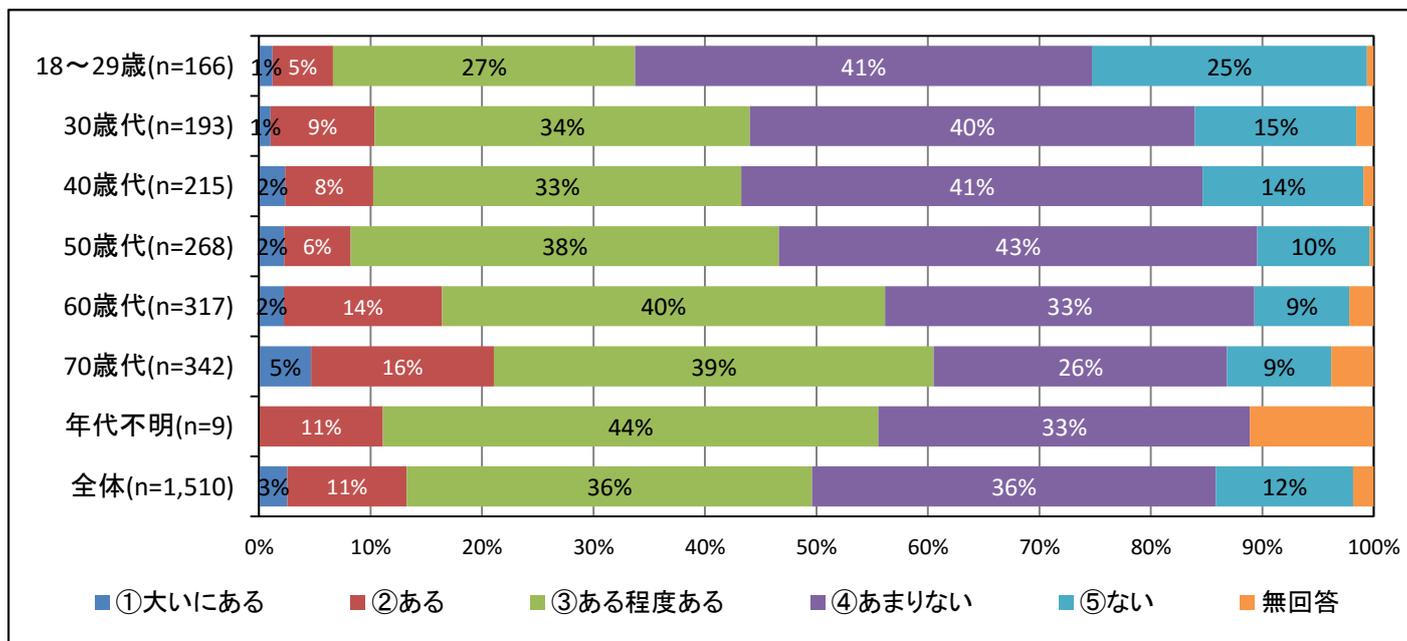
ボランティア活動や住民の支え合い活動を行わなかった理由を教えてください。(あてはまるものすべて)



過去1年間にボランティア活動や住民の支え合い活動を行わなかった理由としては、「時間の余裕がない」が40%で最も多く、年代別にみると、40歳代までの年代で5割前後となっている。次いで、「活動の情報がない」が35%であった。

【質問14】

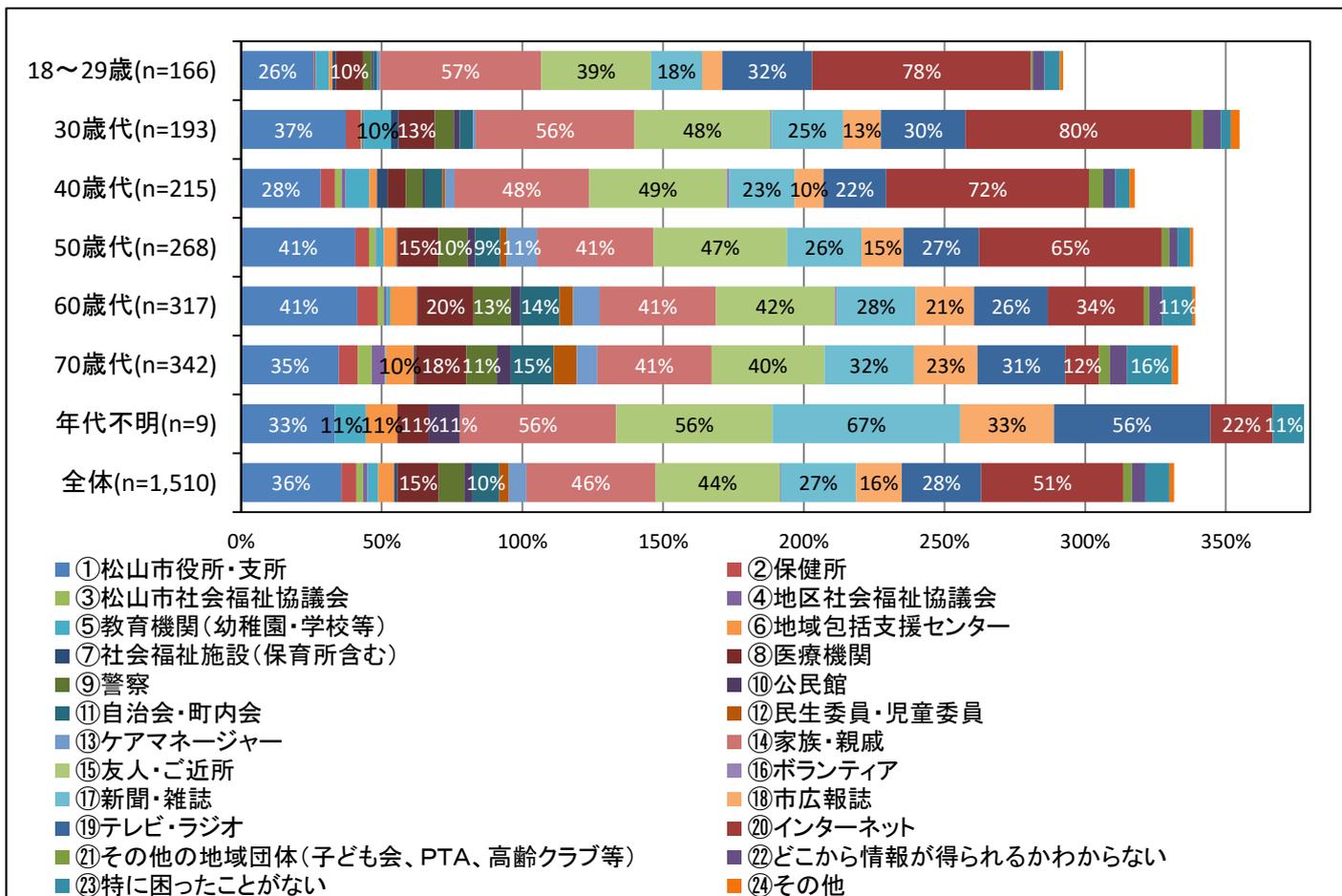
あなたは、県・市や社会福祉協議会、民生委員・児童委員等が行う地域福祉に関する取り組みに興味・関心がありますか。



全体の50%が地域福祉に関する取り組みに興味・関心があり、年代が高くなるほど割合・関心の度合とも高くなっている。

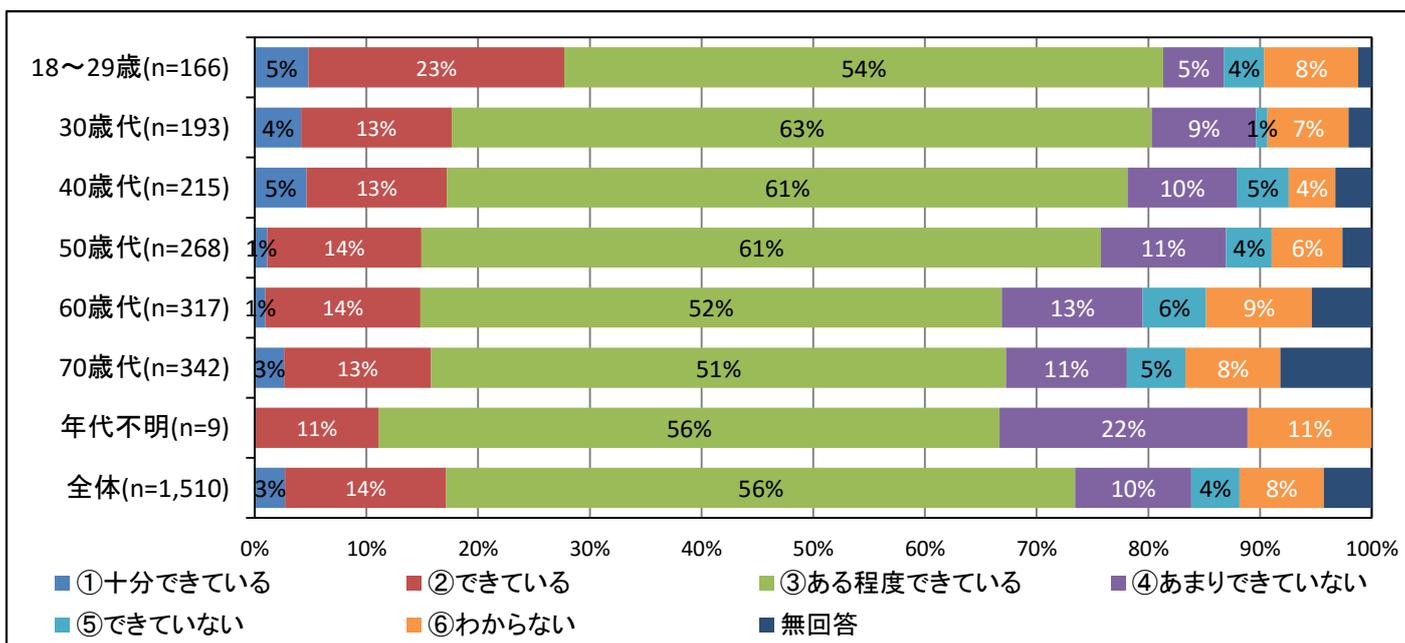
【質問15】

(1) あなたは、生活の中で困ったことが生じた場合、どのようなところから情報を得ていますか。(あてはまるものすべて)



困り事があった場合の情報の入手方法は、インターネットが51%で最も多く、年代別にみると、10~50歳代の割合が高いが、60・70歳代では低くなっている。次いで家族や友人など、身近な人への相談が多い。その他には、市役所などの行政機関や新聞・テレビなどのマスメディアから情報を得ている。

(2) その際、必要な情報を適切に得られていますか。

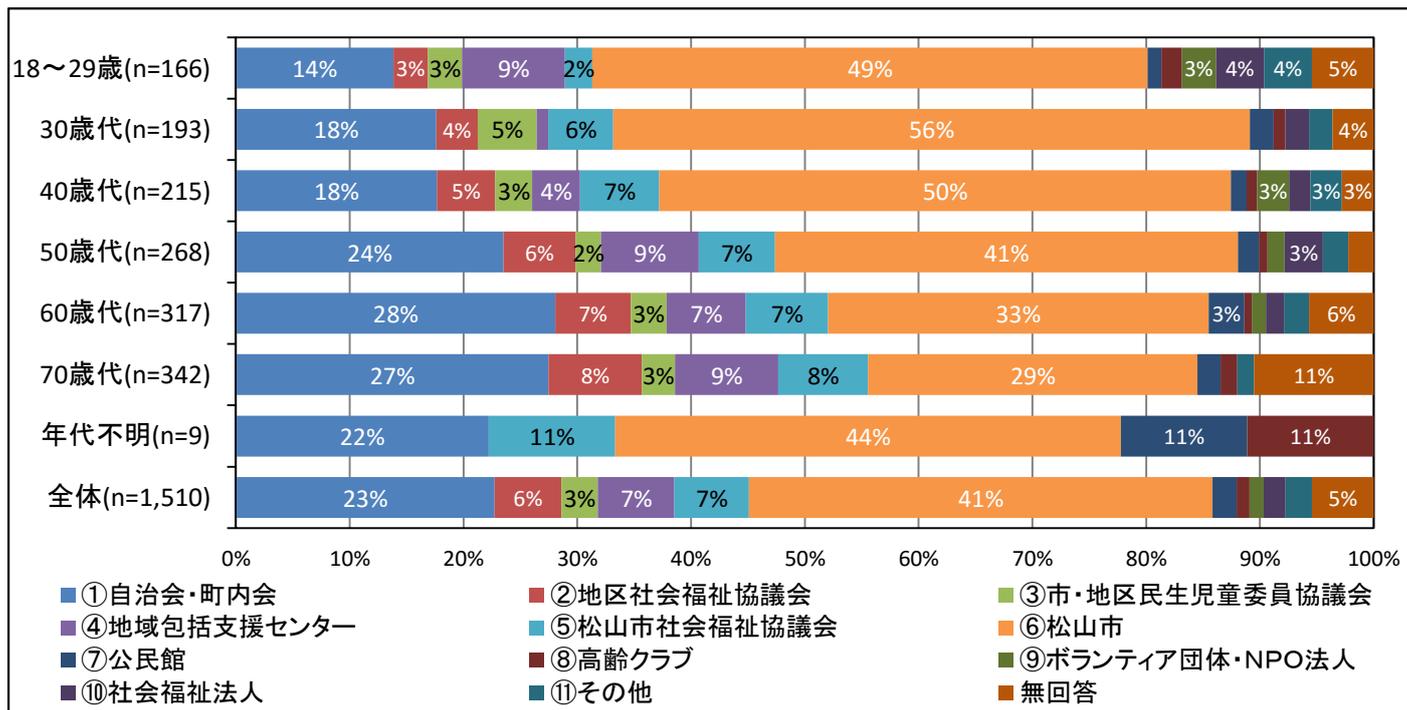


全体の73%である程度以上必要な情報を得られており、年代別にみると、50歳代まででは8割前後であるが、60・70歳代では7割を下回っている。

【質問16】

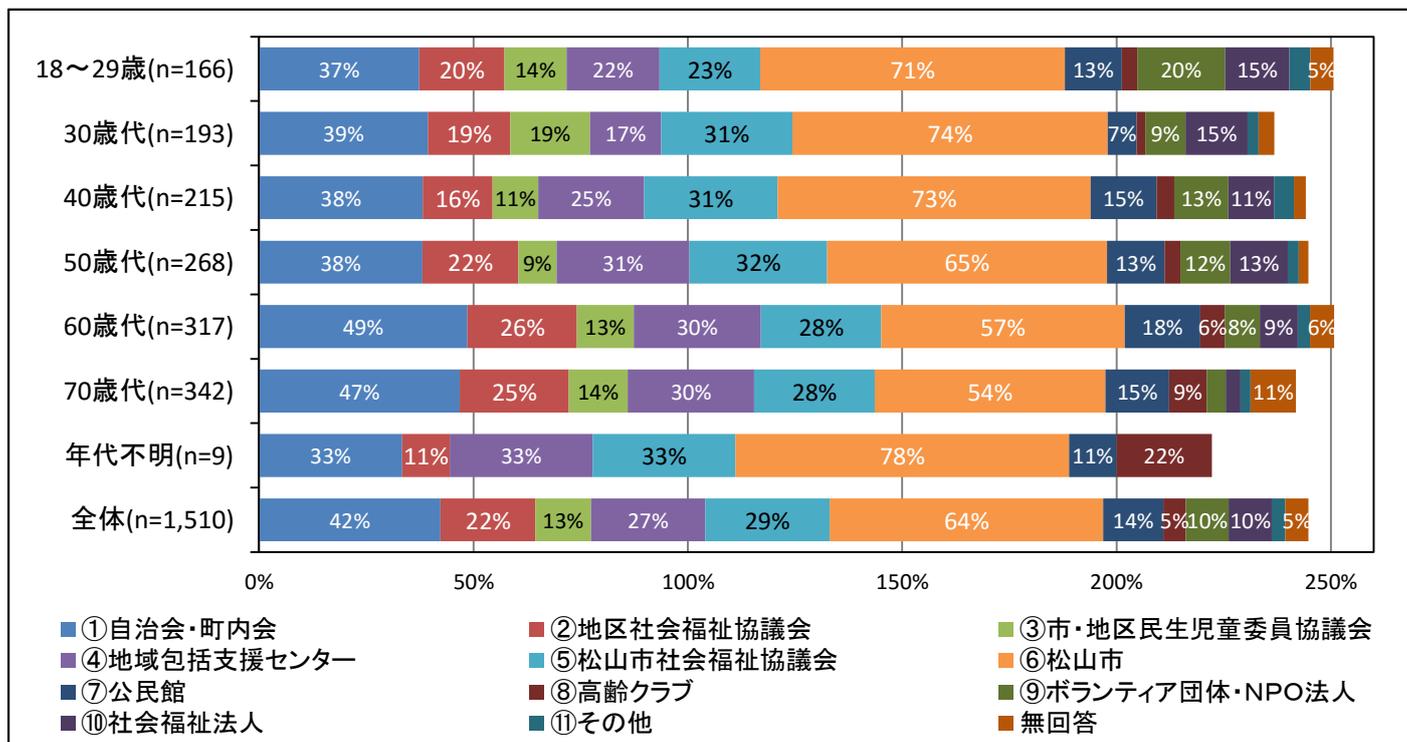
あなたは、地域福祉の担い手としてどこに役割を期待しますか。最もあてはまるものから順に3つ以内で選択してください。

1位



地域福祉の担い手としての役割を最も期待されているのは、松山市が41%、次いで自治会・町内会が23%となっている。団体の規模別にみると、市単位の団体（松山市・市社協）が5割、町・地区など小単位の団体（自治会・地区社協・包括支援センター等）が4割となっている。年代が高くなるほど、小単位の団体に役割を期待する割合が高くなっている。

総計(順位関係なし)



地域福祉の担い手としての役割を期待されているのは、松山市が64%で最も多く、次いで自治会・町内会42%、市社協29%となっている。団体の規模別にみると、市単位の団体より町や地区など小単位の団体に役割を期待する割合が多少高くなっている。また、低い年代ではボランティアやNPO、社会福祉法人などへの期待も見られた。